



林野庁図書館

林野庁図書館ニュース

発行：林野庁図書館

TEL：03-3501-0964

森林・林業白書イメージキャラクター
きくりー

令和6年度 森林・林業白書を公表

～特集は「生物多様性を高める林業経営と木材利用」！～

令和7年6月3日に令和6年度 森林・林業白書が閣議決定・公表されました。

今回の特集は、初めて生物多様性を取り上げ、テーマを「生物多様性を高める林業経営と木材利用」としています。気候変動の問題と並ぶ地球規模の課題として、国内外の企業活動等においても関心が高まっている生物多様性について、森林におけるこれまでの保全の取組や、生物多様性を高めるための林業経営、そこから生産される木材の利用の今後の方向性について詳しく紹介しています。

また、トピックスでは、令和6年度における特徴的な動きとして、「森林経営管理制度5年間の取組成果」、「林業職種」の技能検定がスタート～「林業技能士」の誕生～、「木材自給率が近年で最も高い43%まで回復」、「中高層建築物等における木造化の広がり」、「プラスチックを代替するバイオマス由来素材「改質リグニン」の今後の展開」、「令和6年能登半島地震と大雨による山地災害等への対応」を取り上げて紹介しています。

このほか、森林・林業・木材産業の動向について、全国各地の事例や様々な写真も交えて分かりやすくまとめています。



今年も白書に様々な挿絵を掲載しています。



「森林・林業白書」説明会のご案内

参加費無料・事前登録制

最新白書について、特集の「生物多様性を高める林業経営と木材利用」、令和6年度のトピックスや森林・林業・木材産業の動向を、写真や事例を交えながら林野庁の担当者が分かりやすくご説明します。ぜひご参加ください。

〈開催形式〉オンライン

〈日程〉 令和7年6～7月にかけて複数回開催



もりりー

白書の全文、概要、事例一覧、一括検索、説明会の詳細はこちら



白書関連図書を紹介します

保持林業 木を伐りながら生き物を守る



本書は、欧米で実践され普及している、生物多様性の維持に配慮し、林業が経済的に成り立つ「保持林業」を第一線の研究者16名により日本で初めて紹介。保持林業では、伐採跡地の生物多様性の回復・保全のために、何を伐採するかではなく、何を残すかに注目する。生産林でありながら、美しく、生き物のにぎわいのある森林管理の方向性を示す。

編集：柿澤宏昭、山浦悠一、栗山浩一
出版社：築地書館（2018年11月）

森林の変化と人類



森林の組成や構造の変化は森林の機能や生態系サービスの変化となり、生物多様性とそれがもたらす生態系サービスの変化が、森林管理の大きな問題へつながる。このように、森林変化は人とのかかわりを抜きには語れない。第1巻では森林の変化と人類の関わりを歴史を振り返り、本シリーズ続巻を読む上での基礎的な知識を修得する。

編集：中静 透、菊沢 喜八郎
出版社：共立出版（2018年3月）

人と生態系のダイナミクス② 森林の歴史と未来



森林と人はどのように歩んできたか。生態系と社会の視点から森林の歴史と未来を探る。〔内容〕日本の森林のなりたちと人間活動／森の恵みと人々の営み／循環的な資源利用／現代の森をめぐる諸問題／人と森の生態系の未来／他

編集：宮下 直、西廣 淳
著者：鈴木 牧、齋藤 暖生、西廣 淳、宮下 直
出版社：朝倉書店（2019年12月）

ESGとTNFD時代のイチから分かる

生物多様性・ネイチャーポジティブ経営



ビジネスに欠かせない、自然・生物多様性を守り増やす「ネイチャーポジティブ」経営の世界動向をイチから解説。自然の保全と経営の両立でESG投資を呼び込む事例やTNFDを紹介しています。世界の企業・投資家の事例が満載。

著者：藤田 香
出版社：日経BP（2023年4月）



新着図書・注目図書のご案内

林野庁図書館は、林野行政・施策部門における専門図書館として、歴史的に貴重な明治・大正期の森林・林業・木材産業に関する資料から、森林環境教育等にご活用いただけそうな図鑑や絵本等まで幅広く図書資料を備えております。皆様のご利用をお待ちしております。当館の蔵書の中から、新着図書や注目図書の一部をご紹介します。

自伐型林業 小さな林業の今とこれから



「自伐型林業」という言葉は、10年前には存在しませんでした。戦後、復興のため住宅建材や紙の原料確保で山を丸ごと伐採する林業が主流に。その結果、森林を荒廃させ、林業従事者は高齢化したため、衰退産業と呼ばれています。一方、自伐型林業は大規模伐採ではなく、自分自身の手の届く範囲で木を切って植林、山のもつ生命力を生かす小規模の林業の方法です。自伐型林業の始まりから10年の歩みを振り返り、「次の10年」を思い描く一冊です。

編集：自伐型林業推進協会
出版社：世界書院(2025年3月)

樹木医がおしえる木のすごい仕組み



木は自分で動くことができないけれども、そこにある木は置物ではありません。確かに生きている「生物」です。本書では、樹木医でインタープリターとしても活動する著者が、そんな「木」のすごい仕組みを余すところなく伝えます。

木と向き合うときに大事なものは、「なぜこうなっているのだろう?」と想像してみることです。植物たちの型にとられない生き方を、ぜひ著者と一緒に観察してみてください。

著者：瀬尾 一樹
出版社：ベレ出版社(2025年3月)

林業遺産へ行こう



旅が好き、自然が好き、伝統文化が好き、そして鉄道が好きな方に。長く花形産業だった林業の歴史で育まれてきた、森を育てながら利用し続ける知恵と技術。それは、いままさに求められる「持続可能な自然利用」に貢献する宝物です。そうした宝物たちを研究者が取材、見学コース案を作りました。

編/著：柴崎 茂光
出版社：文一総合出版(2025年4月)

続日本百低山

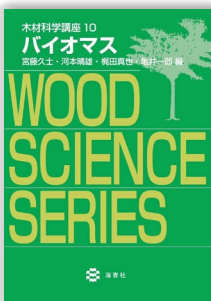


小林泰彦の「二百低山」完結。標高1500メートル以下、低くても魅力たっぷりの山100山をイラスト紀行で紹介。

著者：小林 泰彦
出版社：山と溪谷社(2025年2月)



木材科学講座10 バイオマス



林業系教科書の定番、木材科学講座シリーズ待望の第10巻! 木材を木質バイオマス資源として捉え、その「生産」および「利用技術」を取り上げる。木材の化学成分利用に関して各種の生物学的あるいは化学的変換技術を紹介。

編集：宮藤久士、河本晴雄、梶田真也、亀井一郎
出版社：海青社(2025年3月)

都市林業で街づくり



山奥で行うイメージのある林業ですが、実は都市にも街路樹や公園木、庭木など木々がたくさん存在しており、これらの樹木を使って、緑を社会に役立つものにしようという「都市林業」の取り組みが始まっています。これまで都市にとっての樹木は「景観」という側面が強く、近隣の問題などから伐採された木々は木で扱える質ではなくほとんど活用されてきませんでした。そんな都市の木々をゴミではなく活かす方法とは。都市林業の可能性と、都市の木々を循環させ街の暮らしを豊かにするヒントがわかる1冊です。

著者：湧口 善之
出版社：築地書館(2025年3月)

森林・林業まんが・イラストをご活用ください!

こどもたちに森や林業のことを伝える教材として。さまざまなイベントでの展示やパンフレットとして。オフィスで、お店で、ご家庭で、木材利用をお考えのみなさま。

森林や林業に興味を持っていただくきっかけづくりのひとつとして、どなたも自由にご利用いただけるコンテンツをご用意しております。データを希望される方は、お気軽にお問い合わせください。

林野庁図書館の林業漫画・イラストは[こちら](#)



森林業循環活用図(作: 林野庁職員 平田美紗子)

連絡先: 林野庁企画課林野図書資料館(国立国会図書館支部林野庁図書館)

代表: 03-3502-8111(内線6060) 直通: 03-3501-0964

HP: <https://www.rinya.maff.go.jp/j/tosyo/index.html>

